

座長集約

「3D Workstation 最新情報」

熊本大学医学部附属病院 羽手村昌宏

「3D Workstation 最新情報」のテーマで、富士フィルムメディカル株式会社からは「SYNAPSE VINCENT 製品紹介と実用例」、アミン株式会社からは「ザイオステーション2 PLUS について」、テラリコン・インコーポレイテッドからは「Aquarius iNtuition Server の最新情報」、そして株式会社 AZE からは「先端技術融合による新しいソフトウェア」のタイトルで、各社から最先端のテクノロジーを搭載したワークステーションについて講演していただいた。

最近では単なる血管構築だけではなく、手術支援画像や各モダリティから得られた画像をフュージョンして、診断・治療に活用できるような画像が臨床上求められてきている。それらに対応すべく各社ソフトを開発していて、操作性に関しても3D作成から読影に至るまで便利にかつ簡単に作業ができるようサポートされてきている。また、ネットワークタイプのワークステーションも開発されてきて、ワークステーション本体だけではなく、読影端末上で画像処理を行う様にもなっている。

ほとんどの施設で3Dの作成は放射線技師によってなされていると思われるが、3D作成が「より簡単に」なってくるのは非常にありがたいことである。ただ良好な画質で、正確な画像を求めることも必要である。CTに携わる（CTだけではないが）放射線技師にとって、「よりよい3D画像を得るためには、元画像（2D）の画質が重要である」ということを認識して、良好な3D画像を作成するために元画像の画質をいかに向上させるかを考えることも重要である。

今回の最新情報から、3D作成のソフトウェアが充実してきたことが改めて再認識できた。今後はこれらをいかに使いこなすか、また、精度や正確さ、臨床上の有用性をわれわれが検証することが求められる。